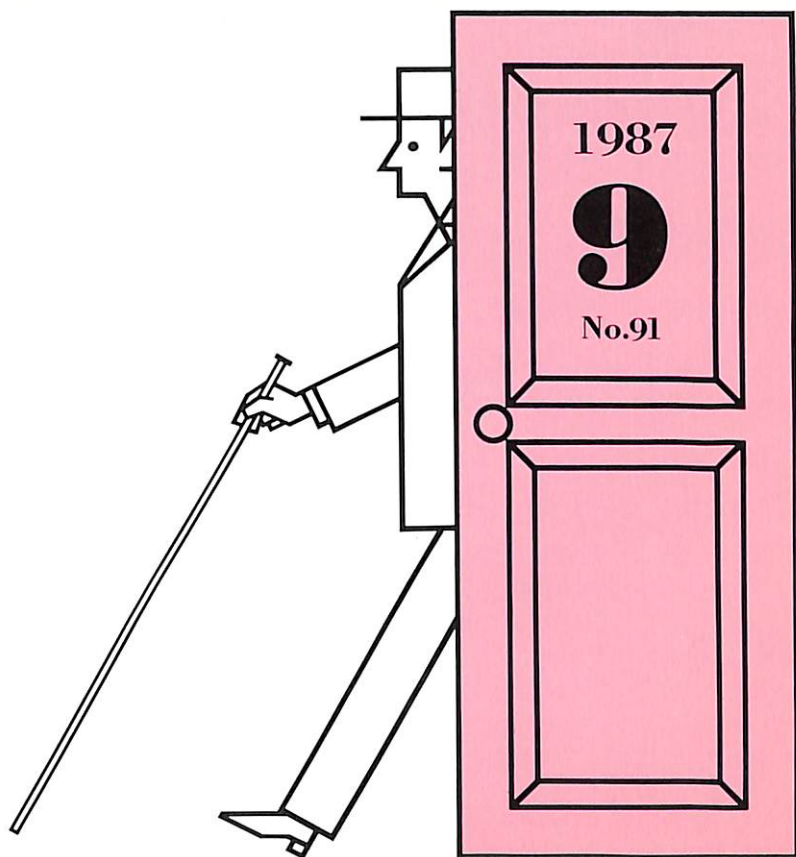


昭和四十六年六月一七日 第三種郵便物認可 昭和六十二年八月一五日 SSK通巻第一六〇二号 (毎月六回、5の日、0の日発行)

視覚 障害

その研究と情報

特集*盲学校における全盲教師の役割



ISSN 0385-7476

SSK

標準点字表記辞典

改訂版

A5版 288ページ ケース付

定価 1,700円

改訂版が完成しました!!

8人の編集委員が、各方面の意見を聞いて最も正

確な改訂版をつくり上げました。5年半にわたる労

苦の結晶を自信をもっておすすめします。

お申し込みは、一般書店または日本点字図書館用

具部へ。

発行 日本盲人福祉研究会

発売元 株式会社博文館新社

目 次

1987年 9月 No.91

2 ページ評論	牧田 章	2
特集 盲学校における全盲教師の役割		
重複児教育で考えること	宮城 武久	5
「生き字引」か「タヌキ」か?	山田 親幸	9
普通校で使える工夫	原 哲夫	14
英語教員が誕生するまで	平田 陽子	19
この人と語る		
盲学校の現状と教師の役割	佐藤 恒・谷村 裕	24
私と統合教育		
杉本久弥さん—— 統合教育ってわかれへん		33
自叙伝による近代の盲人像 第7回	谷合 侑	39
インフォメーション・コーナー		47
『視覚障害』総目次 No.81～No.90		54
編集後記		62



盲教師はかくありたい

岐阜県立岐阜盲学校校長 牧田 章

この4月に、山口盲学校に全盲の英語の教師が誕生した。大変うれしいことである。全国的にみても、一般試験（点字）で教員を採用したのは大阪、山口などわずかというから実に厳しいものである。

盲学校教員は3,200人、そのうち約450人が視力障害者であると推定され、そのほとんどは理療科の教員である。盲学校における盲教師の採用の厳しさは、この理療科教員にもみられ、筑波大学理療科教員養成施設でも、「新しい時代の要請にこたえられる力を持った臨床科に挑戦してはどうであろうか。」といわれているように、全盲の卒業生の就職は大変困難となってきた。私もこの春の人事異動により全国でただ一人の全盲校長（理療）となり、このほか全盲教頭は広島盲学校（理療）、兵庫盲学校（社会）の2名がおり、管理職への昇進は実に厳しい状況にある。

言うまでもないことであるが、教育は教師と児童・生徒との人格のふれあいのなかで成り立つものであり、教師にはその職務にふさわしい資質、即ち専門的知識・技能を土台とした人間愛、教育愛が求められるのである。言い換えれば教育者にはその資質プラス努力が必要なのである。また、関係法規によれば奉仕を基調とした対人サービスに情熱が要求されている。この点については全盲教師もかわりはないが、墨字による事務処理という不利な条件が重くのしかかっている。理療科の教員には、理療に関する限り実習助手の助けが得られるが、そのほかの校務分掌については普通科教員との人間関係のなかで進められなければならない。そのためには、盲教師にできる仕事を受け持つことになり、生徒指導・教育相談・部活動、養護・訓練、進路指導等の領域での力を発揮することが必要となる。

教科指導にあっては、理療科教員については、臨床において高度

な技術が要求され、厳しい理療の現状のなかでの理療師養成に全力をつくすべきである。そうしなければ盲学校出身の理療師の前途は多難である。一般教科においては基礎学力の向上につとめなければならない。

臨教審第3次答申の「障害者教育」のなかでは次のように指摘している。

○一部教員の専門性、意欲の不足もあって教育が十分であるとはいえない。

○教育と医療・福祉・雇用の連携が不十分で障害の克服、改善、社会的自立を促進するうえで問題がある。

また、最近教育界で言われている

○基本的生活習慣の欠如

○心の教育の欠如

○自然とのふれあいの欠如

○勤労体験の欠如

など教育機能が重視される傾向にあり、盲学校、家庭、地域の連携のなかで盲教師がかかせない人材とならなければならない。

これらの点から私は盲学校における盲教師に必要なすがたを次のように考えたい。

○児童・生徒と同じ障害を持つ教育者としての使命感に燃える教師。

○理療、英語等専門職としての指導力を備えた教師。

○障害の克服、進路、生き方について語りあえる教師。

○広い教養と常識をもち、人間に幅を持つ教師。

○みだしなみに心掛け、良識ある言動ができる教師。

○組織の一員として、協調して仕事ができる教師。

盲教師の心構えとして、障害者自身の能力を高めることに全力をそそぎ、私も含めて自己啓発につとめ、この可能職種である盲学校教師の職域確保を切望してやまない。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編集後記

少ない、少ないと言われながら、最近では一般の職場で働く視覚障害者が徐々にふえています。前号の特集では、民間企業に働く人々を紹介しましたが、公務員にもずいぶんたくさんいます。視覚障害を持つのは自分一人で、周りはほとんど健常者というのが普通です。そんな中で仕事をうまく処理するには、人知れず気を配らなければならず、それなりの苦労がある、とよく聞きます。盲学校や盲人関係施設などでは、そんなことはないだろうと漠然と考えていました。しかし、今回の特集を読んでいますと、盲教師の存在の必要性よりも、校務分掌や人間関係がよりクローズアップされているように思います。視覚障害者一人の職場よりも、環境ははるかに整備されているはずなのに「なぜ？」と思いたくなりますが、現実はそのあまくないようです。もっともここに執筆していただいた先生は、皆さん問題意識を持ち、その解決に努力しておられる方ばかりなので、問題点を明確に指摘されたのでしょうか、この陰には、「ぬるま湯」にドップリつかっていて、何も感じておられない先生も多いのではないかと編集会議では話題になりました。皆さんの学校ではいかがでしょうか？

次号（11月）は、名古屋の委員が、特集と「この人と語る」をまとめることになりました。御期待ください。（田中徹二）

視 覚 障 害	1987年 9 月 No.91
年間購読料	3,000 円（送料とも）
発行日	1987年 9 月 1 日
編集人（連絡先）	
日 本 盲 人 福 祉 研 究 会	
〒 166 東京都杉並区成田東 5 丁目 36 番 15号	
電話（03）220 - 1421	
振替口座 東京 6 - 1 6 1 0 3	
発行人	身体障害者団体定期刊行物協会
〒 157 東京都世田谷区砧 6 - 26 - 21	
印刷所	合同印刷株式会社
〒 130 東京都墨田区業平 2 - 9 - 13 電 話（624）6 1 1 1（代表）	

協賛団体 日本点字図書館